Panasonic®

音声ファイル管理ソフト

Voice Editor 3

取扱説明書

このたびはお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

■ この取扱説明書とICレコーダー（本体）の取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。

• Windowsの基本操作やコンピューター、周辺機器の取り扱いについては、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

MSC0037AD_J_ZA

こんなことができます

ICレコーダーやSDメモリーカードに記録した音声ファイルをパソコンに取り込み、音声ファイルの管理、再生などを行うことができます。

A 転送する／保存する

音声ファイル単位、サブフォルダー単位で、ハードディスクなどに保存します。ICレコーダーなどに転送することもできます。

B 編集する

パソコン上で順番を変えたり、削除したりできるほか、音声ファイルやサブフォルダーのタイトルの変更、音声ファイルのソート（並び替え）、新しいサブフォルダーの作成などができます。

C 再生する

ICレコーダー、SDメモリーカードまたは、ハードディスクに保存された音声ファイルを再生することができます。

D 検索する

カレンダー機能を使って録音日時をもとに音声ファイルを検索することができます。

E 文字に変換する

別売りの音声認識ソフト（ドラゴンスピーチ・セレクト バージョン 6.0以上）をインストールしている場合、音声ファイルを文字に変換することができます。

もくじへ

もくじ

お使いになる前に

すぐ使う

さらに使いこなす

必要なときに

必要なシステム構成

Voice Editor 3をお使いいただくためには、以下のような性能を満たしたIBM PC/ATおよびその互換機が必要です。
（NEC PC-98シリーズ及びその互換機での動作は保証しません。また、Macintosh®では動作しません。）

■ **OS（日本語版）：Microsoft® Windows®98/98SE、Windows®Me**
Windows® 2000 Professional およびSP2/SP3
Windows® XP Home Edition/ProfessionalおよびSP1

- Microsoft® Windows®3.1/95、Windows NT®およびMacintosh®には対応していません。
  また、Windows®3.1/95、Windows NT®からWindows®98/98SE、Windows®Me、Windows®2000、Windows®XPへのアップグレード環境では動作保証いたしません。
- システム管理者（Administrator）のユーザーのみ使用可能です。

■ **システム構成**

- CPU：Pentium Ⅱ 333MHz 以上または、同等以上の性能を有するプロセッサ
  （Pentium Ⅲ 500MHz以上推奨）
- RAM：64MB以上（Windows®2000、XPの場合、128MB以上）
- ハードディスクの空き容量：30MB以上
  （音声ファイルの転送時に、一時領域として、最大でICレコーダーに搭載されているメモリー量の約3倍のハードディスク空き容量が必要です。また、音声データにより、別途空き容量が必要です。）
- ドライブ　　　：CD-ROMドライブ（インストールに必要）
- サウンドボード：Creative社 Sound Blaster®16互換
- ディスプレイ　：ハイカラー（16ビットカラー）以上に設定、800×480ドット以上の解像度
- USBポート（USBハブおよびUSB延長ケーブルで接続した場合の動作は保証しません）

※ 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
※ お客様が自作されたパソコンについては動作保証いたしません。

※ 音声認識ソフトをお使いの場合は、音声認識ソフトの「必要なシステム構成」をご覧ください。

扱える音声ファイルの形式

VM1ファイル形式

■ Panasonic ICレコーダーで録音される音声データ

圧縮形式　：ADPCM2
Voice Editor 3でのアイコン：（ICレコーダーマーク）
録音モード：HQ（ハイクオリティ）、SP（スタンダードプレイ）、LP（ロングプレイ）
（各音声ファイルのモードは音声ファイル一覧表示部で表示されます）

ADPCM2	フォルダー数制限	ファイル数制限
メモリー内蔵タイプICレコーダー	001～004（固定）	001～099
SDメモリーカード（ICレコーダーに装着時）	001～009	
ハードディスク・リムーバブルディスク	001～999	001～999

■ H"、ビデオカメラで録音される音声データ

圧縮形式　：G.726
Voice Editor 3でのアイコン：（H"／ビデオカメラマーク）
録音モード：SP（スタンダードプレイ）のみ
（各音声ファイルのモードは音声ファイル一覧表示部で表示されます）

G.726	フォルダー数制限	ファイル数制限
	001～999	001～999

音声ファイルは8分24秒ごとに分割されて保存されます。8分24秒を越える音声ファイルがある場合は、1フォルダーあたりの保存できるファイル数が999個より少なくなります。(☞ 33ページ)

お知らせ

- SDメモリーカードスロット付きICレコーダーをお使いの場合、Voice Editor 3では、SDメモリーカード上の、(ICレコーダー)アイコンのフォルダーをご使用ください。
- VM1ファイルは音声データを圧縮しているため、WAVEデータよりも少ない容量で保存することができます。
- ？アイコンで示される音声ファイルは、保存、再生、編集など操作はできません。(☞ 20ページ)

WAVEファイル形式

Voice Editor 3で「WAVE→VM1」もしくは「VM1→WAVE」に変換することができます。
(☞ 16ページ)

「VM1→WAVE」変換時の初期ファイル名は、
［番号］＋［タイトル名］＋［日付］.WAV　です。
（［番号］＋［タイトル名］＋［日付］：ファイル名、.WAV：拡張子）

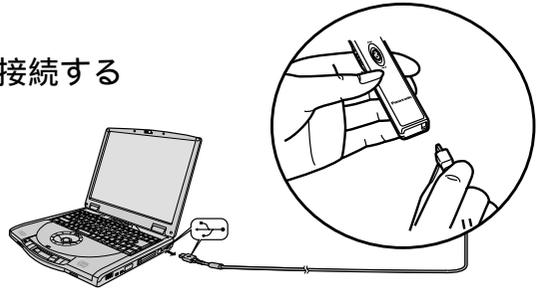
起動と終了

起動する

❶ Windowsを起動する

❷ USBケーブルでICレコーダーとパソコンを接続する

お知らせ

- SDメモリーカードを使う場合は、USBリーダーライターまたはPCカードアダプターにSDメモリーカードを差込み、パソコンと接続してください。
- ICレコーダーやUSBリーダーライターはVoice Editor 3ではドライブとして認識されます。ICレコーダーはWindows上ではドライブとして認識されません。

❸ デスクトップの Voice Editor 3 アイコンをダブルクリックする

Voice Editor 3が起動し、初期画面が表示されたあと、〈ドライブ選択ダイアログ〉画面が表示されます。

デスクトップにアイコンが表示されていない場合「スタート」メニューで［すべてのプログラム］→［Voice Editor 3］→［Voice Editor 3］を順に選びます。

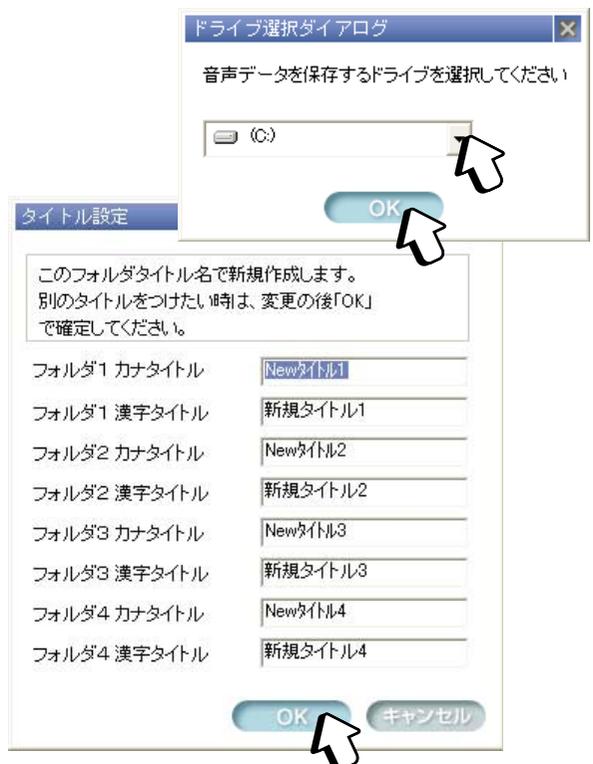
❹ 任意のドライブを選び、OK をクリックする

SD_VOICEフォルダー作成の確認画面で［はい］をクリックすると、〈タイトル設定〉画面が表示されます。

❺ フォルダータイトルを決める

- フォルダーが4個作成されます。
- カナタイトル（半角）と漢字タイトル（全角）の2種類のタイトルをつけることができます。
(☞「タイトルの入力」25ページ)
- フォルダータイトルは、後でいつでも変更できます。

❻ OK をクリックする

〈使用機器選択〉画面が表示されます。

次ページへ続く

❼ 使用する機器を選ぶ

お使いの機器によって「✔」を入れてください。

使用機器設定

Voice Editor 3 でご使用になる機器(Voice機能つき)を選択してください。

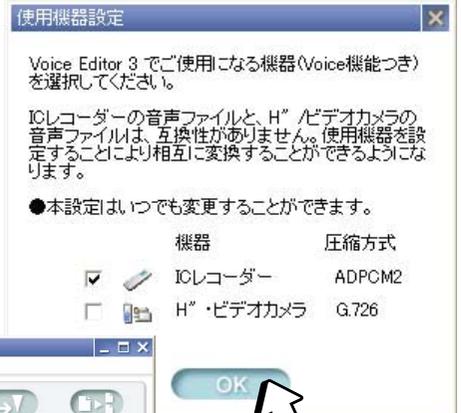
ICレコーダーの音声ファイルと、H" /ビデオカメラの音声ファイルは、互換性がありません。使用機器を設定することにより相互に変換することができるようになります。

●本設定はいつでも変更することができます。

	機器	圧縮方式
☑	ICレコーダー	ADPCM2
☐	H" ・ビデオカメラ	G.726

OK

❽ OK をクリックする

- メイン画面が表示されます。
- 2回目以降は❹～❽の手順は不要です。

メイン画面

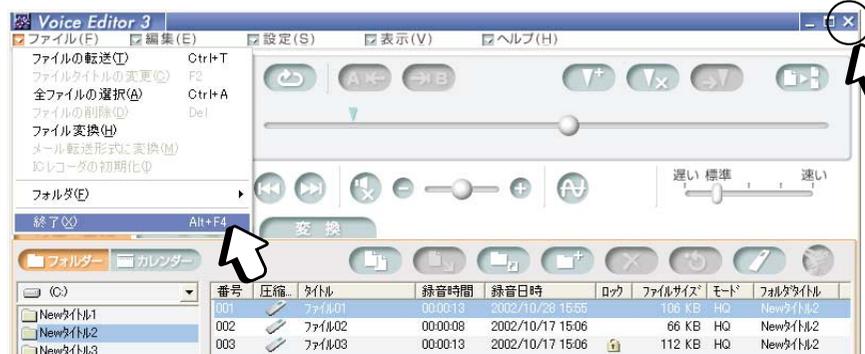
お知らせ

- Windowsの画面の設定が「特大フォント」になっていると、メイン画面の表示が上の通りにならないことがありますので「標準」フォントに変更することをおすすめします。(操作の方法はWindowsの取扱説明書をご覧ください)
- Voice Editor 3 と SD Voice Editor ver1.x や Voice Editor 2 (for H" を含む)を同じパソコンにインストールしてご使用になることはできません。あらかじめアンインストールしてからVoice Editor 3をインストールしてください。

終了する

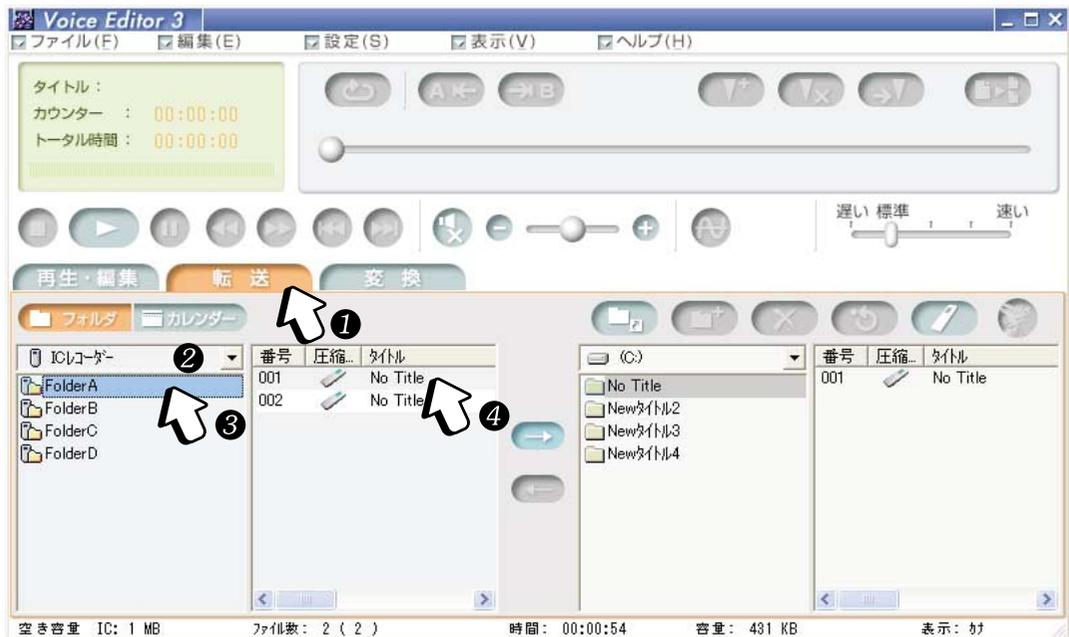
画面右上の [×] を押す

または

「ファイル」メニューで [終了] を選ぶ

転送（保存）する

音声ファイルとフォルダーは一定の形式、名前、構造で保存されます。
(☞「フォルダー構造」33ページ)

パソコンへの転送（保存）

ICレコーダー、SDメモリーカード内のVM1形式の音声ファイルを、1件ずつまたは複数選んでパソコンのハードディスクに転送（保存）することができます。
複数のハードディスクドライブがある場合は、別のハードディスクドライブにも転送（保存）できます。

❶ 転 送 タブをクリックする

転 送 に変わり〈ファイル転送〉画面が表示されます。

❷ 左のウィンドウでドライブを選ぶ

❸ サブフォルダーを選ぶ

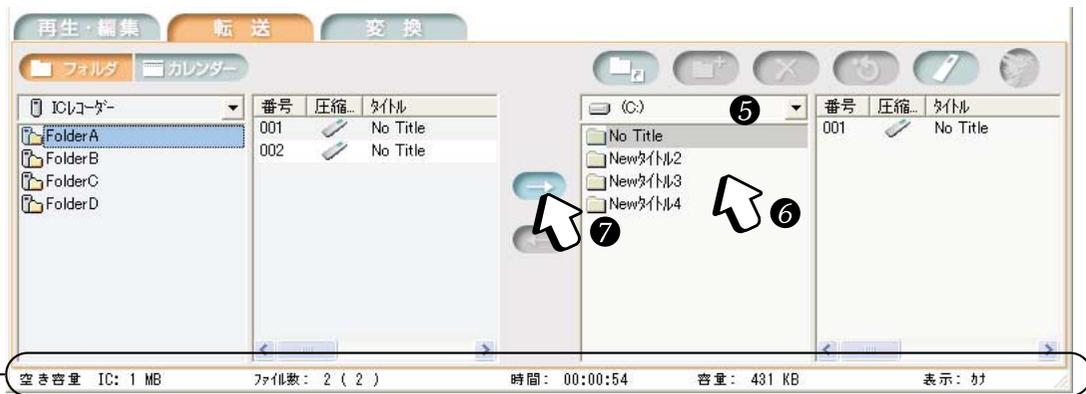
❹ 転送（保存）したい音声ファイルを選ぶ

複数の音声ファイルを選ぶこともできます。

■ **複数の音声ファイルやフォルダーを同時に選ぶには**

- 連続する場合：**最初のファイルでクリック、 Shift キーを押しながら最後のファイルをクリックする**
- 離れた位置の場合：**Ctrl キーを押しながらファイルをクリックする**

次ページへ続く ▶

転送（保存）する

❺ 右のウィンドウで転送（保存）先のドライブを選ぶ

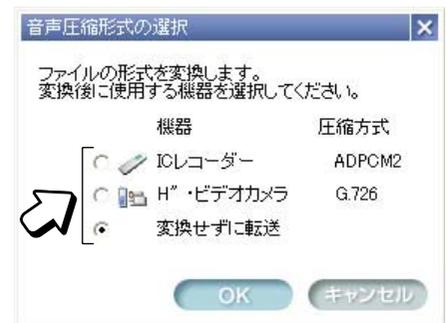
❻ サブフォルダーを選ぶ

選択ドライブの空き容量がステータスバーに表示されています。

❼ [→] をクリックする

転送先に音声ファイルが追加表示されます。

■ 使用機器設定で「ICレコーダー」と「H"・ビデオカメラ」両方を選んでいる場合(☞ 32ページ)

❼の後、〈音声圧縮形式の選択〉画面が表示されます。
お使いの機器によってファイル形式を選んでください。

お知らせ

- 選択したドライブにSD_VOICEフォルダーやサブフォルダーがない場合は、SD_VOICEフォルダーと4つのサブフォルダーが作成されます。仮想ドライブを選択した場合は1つのサブフォルダーが作成されます。
- 空き容量表示に余裕がある場合でも、管理ファイルが一部専有するためや、転送時に一時領域を使用するために、転送（保存）ができないことがあります。

ICレコーダーなどへの転送（保存）

左右のウィンドウでの選択と → ← により、ICレコーダーや、SDメモリーカード、ハードディスク間で音声ファイルを相互に転送できます。

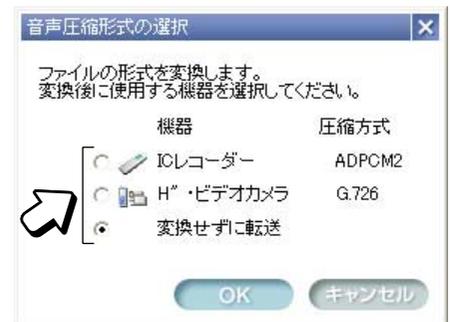
❶ 左右ウィンドウで転送元と転送先のフォルダーと音声ファイルを選ぶ

左を転送元で右を転送先とするか、右を転送元で左を転送先にしてください。

❷ → か ← をクリックする

転送先ウィンドウに音声ファイルが追加表示されます。

■ 使用機器設定で「ICレコーダー」と「H"・ビデオカメラ」両方を選んでいる場合(☞ 32ページ)

❷の後、〈音声圧縮形式の選択〉画面が表示されます。
お使いの機器によってファイル形式を選んでください。

お知らせ

・左右ウィンドウで転送先・転送元に同一のICレコーダーを選んでも転送できません。
・2台以上接続しての、ICレコーダー間の直接転送はできません。

再生する

音声ファイルの再生

パソコンのハードディスクやICレコーダーに保存した音声ファイルが再生できます。

❶ 再生・編集 タブをクリックする

再生・編集 に変わり、〈再生・編集〉画面が表示されます。

❷ ドライブを選ぶ

❸ サブフォルダーを選ぶ

❹ 再生する音声ファイルを選ぶ

圧縮形式のアイコン　：ADPCM2
：G.726
？：形式不明のファイル（再生できません）

❺ ▶ をクリックする

▶ に変わり、スライダーつまみが再生位置を示します。

お知らせ

- エクスプローラーで、VM1ファイルをダブルクリックしても、ファイルは再生されません。
- 複数の音声ファイルを選んでいる場合は一覧の上から順次再生されます。
（☞「複数の音声ファイルやフォルダーを同時に選ぶには」8ページ）

次ページへ続く ▶

再生する

ボタンの機能

停止

再生

一時停止（もう一度クリックするか再生をクリックすると再び再生が始まる）

早戻し／早送り（再生中にクリックし続ける。離すと通常の再生に戻る）

スキップ（前後の音声ファイルにとび越す）

エフェクター：ボタン選択後、右隣上下矢印をクリックして音質を切り替えます。

音質調整の一覧

音質調整番号	効　果
1 ～ 3	高音域カット
4 , 5	低音域カット
6 ～ 8	高音域＋低音域カット
9 , 10	中音域カット

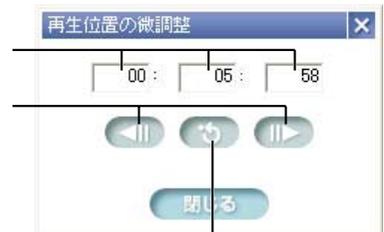
・録音状態によっては効果のない場合があります。

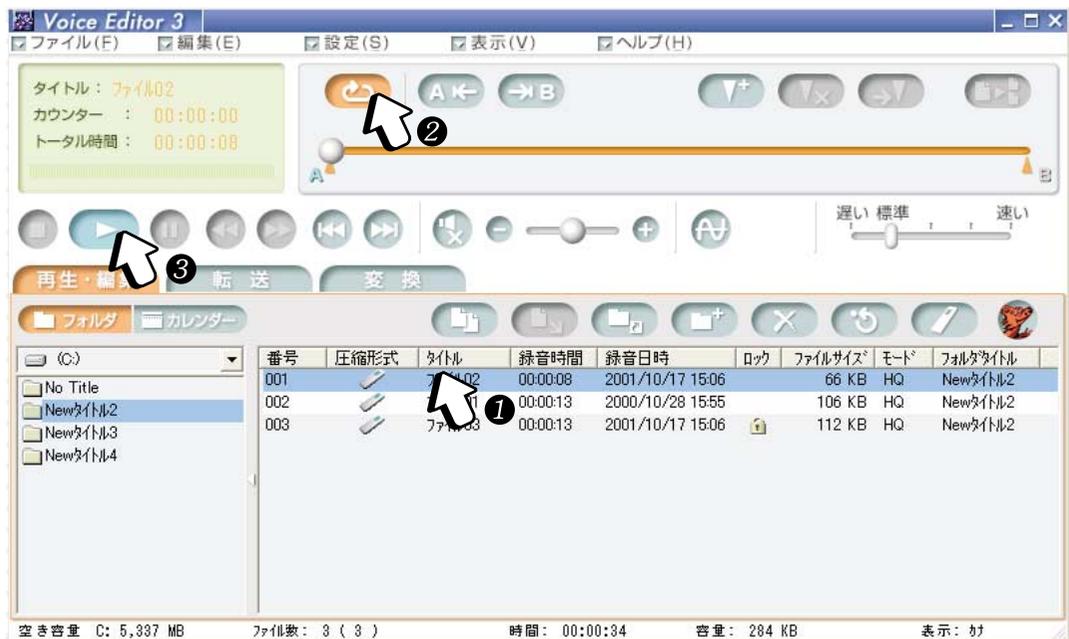
ミュート（消音）（再度クリックすると、音が出る）

音量調整

スライダーつまみ
（右クリックで再生位置の微調整）

カウンター数値を直接入力できます。

1クリックで1秒ずつ動きます。長く押すと早く動きます。（連続クリックをすばやくおこなうと正しく動かないことがあります）

ダイアログを開いた初期の時点に戻ります。

1つの音声ファイルの繰り返し再生（リピート）

❶ 再生する音声ファイルを選ぶ

❷ をクリックする

に変わり、再生スライダーの表示がオレンジ色になります。
解除するにはもう一度クリックしてください。

❸ をクリックする

に変わり、を押すまで、繰り返し再生されます。

指定した2点間の繰り返し再生

Aを指定しなければ音声ファイルの先頭が開始点になり、
Bを指定しなければ音声ファイルの最後が終了点になります。

❶ 再生する音声ファイルを選ぶ

❷ をクリックする

に変わり、再生スライダーの表示がオレンジ色になります。

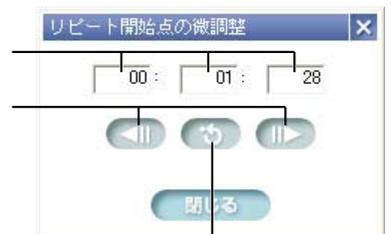
❸ をクリックする

に変わり、再生がはじまります。

❹ 開始点で をクリックする／終了点で をクリックする

- 再生スライダーのA点、B点間だけがオレンジ色に表示されます。
- を押すまで繰り返し再生されます。
- ［ ］と［ ］をドラッグして動かすこともできます。
- ［ ］、［ ］の右クリックで表示される画面で位置を微調整できます。

カウンター数値を直接入力できます。

1クリックで1秒ずつ動きます。長く押すと早く動きます。(連続クリックをすばやくおこなうと正しく動かないことがあります)

ダイアログを開いた初期の時点に戻ります。

再生スピードの調整

聞きたいところを早く探すために早聞きしたいときや、メモの書き取りなどで遅聞きしたいときに音声ファイルの再生スピードを変えることができます。

❶ **再生する音声ファイルを選ぶ**

❷ **▶ をクリックする**

▶ に変わり、再生がはじまります。

❸ **速度調整つまみを目盛位置にドラッグする**

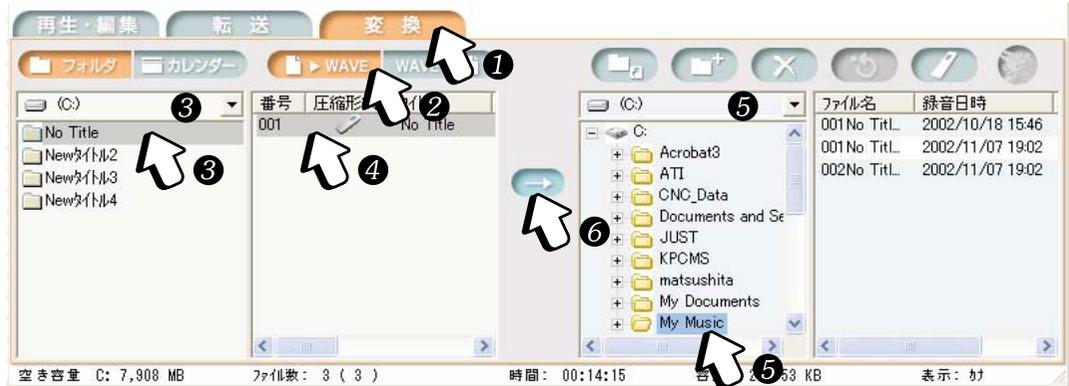
お知らせ

- 再生スピードを変更すると、再生される音声ファイルの音の高さがわずかに変わります。
- ICレコーダー上の音声ファイルを直接再生する場合は、再生スピードの調整はできません。

変換する

VM1形式の音声ファイルをWAVE形式に変換して転送（保存）することができます。
逆に、WAVE形式の音声ファイルをVM1形式に変換して転送（保存）することもできます。

VM1→WAVE形式に変換

〈ファイル変換〉画面

❶ 変 換 タブ をクリックする
変 換 に変わり、〈ファイル変換〉画面が表示されます。

❷ ▶WAVE（VM1→WAVE変換）をクリックする

❸ 左ウィンドウでドライブとサブフォルダーを選ぶ

❹ 変換したい音声ファイルを選ぶ
（☞「複数の音声ファイルやフォルダーを同時に選ぶには」8ページ）

❺ 右ウィンドウで保存先のドライブとサブフォルダーを選ぶ

❻ → をクリックする
→ に変わり、〈WAVE形式に変換〉画面が表示されます。

次ページへ続く▶

❼ ファイル形式を選ぶ

ICレコーダーの録音モードに対応した属性を選んでください。

VM1形式	変 換	WAVE形式
LPモード	▶	8kHz/16bit または 8kHz/8bit
SPモード	▶	11kHz/16bit または 8kHz/16bit
HQモード	▶	11kHz/16bit、16kHz/16bit 、22kHz/16bitのいずれか

変換画面

❽ ファイル名を入力する

変換時の初期ファイル名は[番号]+[タイトル名]+[日付].WAVです。
(タイトル名に「\ /:.;*?"<> | 」が含まれる場合は自動的に「_ 」に置き換わります。)
(複数の音声ファイルを変換する時は上記のタイトル名で自動的に変換されます。)

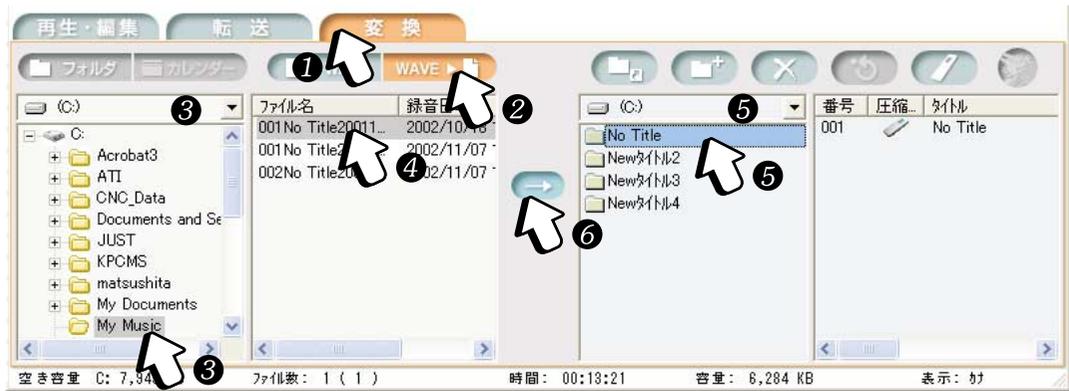
❾ 変換 をクリックする

- 右のウィンドウに変換・転送したWAVE形式音声ファイルが表示されます。
- ▶ をクリックすると再生、確認できます。

お知らせ

- 空き容量表示に余裕がある場合でも、管理ファイルが一部専有するためや、変換時に一時領域を使用するために、変換できないことがあります。
- WAVE形式に変換する場合は保存先をSD_VOICEフォルダー以外の場所に指定してください。
- WAVE形式の音声ファイルの保存先として、ICレコーダーは選択できません。
- WAVE形式の音声ファイルを再生する場合は、再生スピードの調整はできません。

WAVE→VM1形式に変換

〈ファイル変換〉画面

❶ 変 換 タブ をクリックする

変 換 に変わり、〈ファイル変換〉画面が表示されます。

❷ WAVE ▶ （WAVE→VM1変換）をクリックする

❸ 左ウィンドウでドライブとサブフォルダーを選ぶ

❹ 変換したい音声ファイルを選ぶ

▶ をクリックすると再生、確認できます。

（☞「複数の音声ファイルやフォルダーを同時に選ぶには」8ページ）

❺ 右ウィンドウで保存先のドライブとサブフォルダーを選ぶ

❻ → をクリックする

下表と「使用機器選択」で設定された内容に従って自動的に変換されます。（☞ 32ページ）

WAVE形式（サンプリング周波数）	変 換	VM1形式	圧縮形式
6.4 kHz	▶	LPモード	ADPCM2
8 kHz	▶	SPモード	
11.025 / 16 / 22.05 / 44.1 kHz	▶	HQモード	
8 / 11.025 / 16 / 22.05 / 44.1 kHz	▶	SPモード	G.726

右のウィンドウに変換・転送されたVM1音声ファイルが表示されます。
タイトル名は「No Title」に変換されます。

お知らせ

- 空き容量表示に余裕がある場合でも、管理ファイルが一部専有するためや、変換時に一時領域を使用するために、変換できないことがあります。
- WAVE形式の音声ファイルを再生する場合は、再生スピードの調整はできません。

カレンダー機能で検索する

録音日付をたよりに、カレンダー機能を使って音声ファイルを検索します。

（※ カレンダーは一例です）

❶ カレンダー をクリックする

録音した音声ファイルのある日付が緑色で表示されます。

❷ 緑色の日付をクリックする

- 日付が青色に変わり、音声ファイルが右側の一覧表示部に表示されます。
- 順次複数の日付を選ぶと、音声ファイルが日付順に並べられて表示されます。

■ その月のすべての音声ファイルを表示させるには

全選択 をクリックする

日付順に並べられて表示されます。

■ 選択を解除するには

青色の日付をクリックする

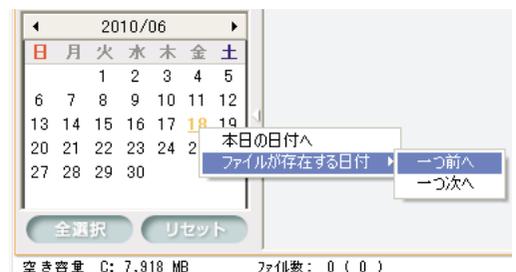
一覧表から音声ファイルが消えます。

■ 全ての選択を解除するには

リセット をクリックする

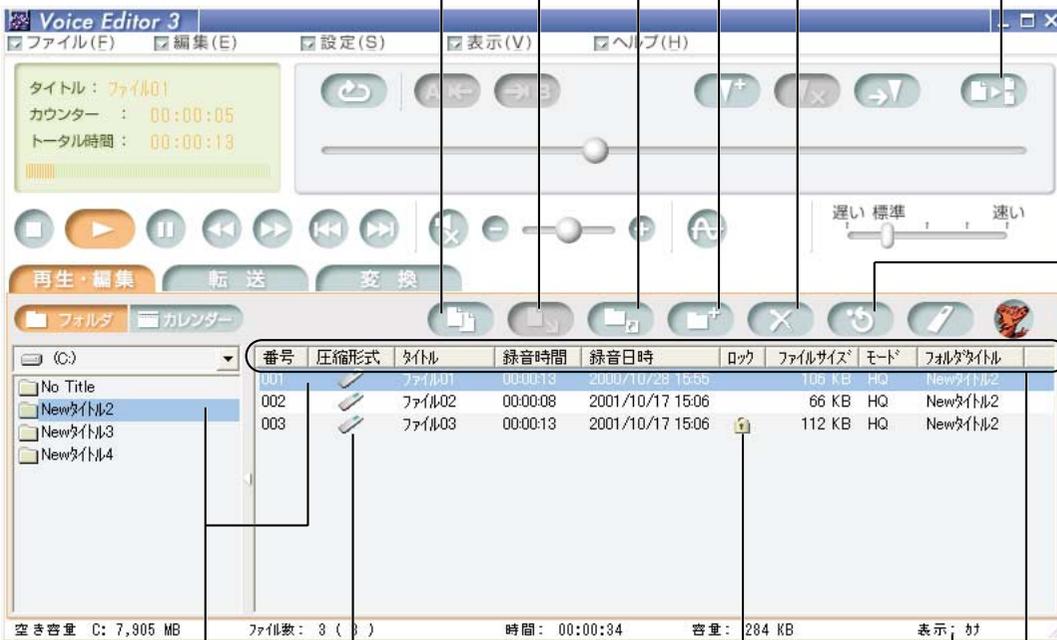
全ての選択が解除され、一覧表示から音声ファイルが消えます。

お知らせ

カレンダーの右クリックですばやくファイルが存在する日付に飛ぶことができます。

編集する

ハードディスクやSDメモリーカード内のVM1形式のサブフォルダーや音声ファイルを編集することができます。
ICレコーダーの音声ファイルは直接編集できませんので、パソコンに転送（保存）後におこなってください。

仮想ドライブを作成できます。
また、音声ファイルやサブフォルダーについて右の編集ができます。

	音声ファイル	サブフォルダー
コピー／貼り付け	○	—
削　除	○	○
新規作成	—	○
ソート	○	—
タイトル変更	○	○
分割	○	—
ロック	○	—

仮想ドライブの作成

各々のドライブのルート・ディレクトリ（最上位階層）にあるSD_VOICEフォルダー以外に、好みの階層にSD_VOICEフォルダーを新規作成して仮想ドライブとして使用できます。

❶ をクリックする

に変わり、〈仮想ドライブ登録〉画面が表示されます。

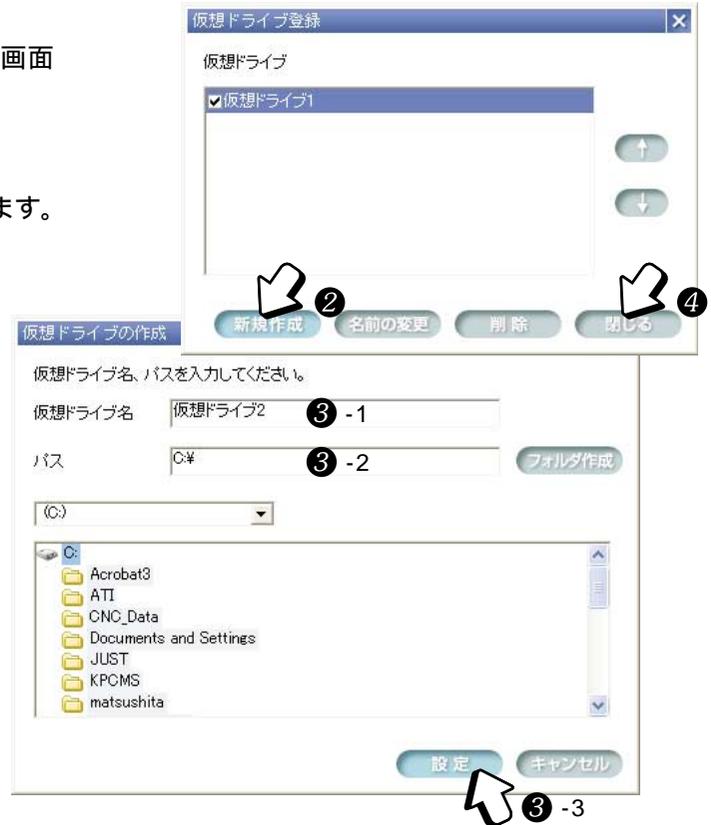
❷ 新規作成 をクリックする

〈仮想ドライブの作成〉画面が表示されます。

❸ 仮想ドライブ名、パス（フォルダー作成先）を入力し、設 定 をクリックする

- パスは画面下段の一覧からフォルダーを選択しても指定できます。
- 〈仮想ドライブ登録〉画面に戻ります。

❹ 閉じる をクリックする

仮想ドライブが作成され、ドライブボックスで新規のドライブとして選べます。

お知らせ

複数の仮想ドライブを作成した場合、〈仮想ドライブ登録〉画面内で使わないものの「✔」チェックをはずすと、一時的に非表示にできます。

新しいサブフォルダーの作成

をクリックする

- 現在のドライブに新しいサブフォルダーが追加されます。
- 「ファイル」メニューで［フォルダ］→［フォルダの作成］を選ぶこともできます。

コピー／貼り付け

音声ファイルをコピーし、他のサブフォルダーに貼り付けることもできます。

❶ **音声ファイルを選ぶ**

❷ **をクリックする**

❸ **サブフォルダーを選ぶ**

❹ **をクリックする**

音声ファイルがコピーされて貼り付けられます。

音声ファイルやサブフォルダーの削除

❶ **削除したいサブフォルダーや音声ファイルを選ぶ**

（☞「複数の音声ファイルやフォルダーを同時に選ぶには」8ページ）

❷ **をクリックする**

- 「ファイル」メニューで［ファイルの削除］を選ぶこともできます。

確認の画面が表示されます。

❸ **［はい］をクリックする**

削除をやめるときは［いいえ］をクリックしてください。

お知らせ

- WAVE形式の音声ファイルを含むサブフォルダーを削除するときは、削除したくない他の形式のデータをあらかじめ退避してからおこなってください。
- ロックされた音声ファイルやロックされた音声ファイルを含むサブフォルダーは削除できません。

音声ファイルの分割

❶ **音声ファイルを再生する**

❷ **分割点で をクリックする**

一時停止状態になり、確認画面が表示されます。

❸ **［はい］をクリックする**

- 分割された2個の音声ファイルが表示されます。
- 分割を実行しないときは［いいえ］をクリックしてください。
- 分割を実行直後に元に戻すには、 をクリックしてください。

お知らせ

分割後の録音時間やファイルサイズの合計は、表示の精度により分割前の値と一致しないことがあります。

音声ファイルやサブフォルダーのタイトルの変更

❶ **タイトルを変更したい音声ファイルを選ぶ**

❷ **「ファイル」メニューで［ファイルのタイトル変更］または［フォルダ］→［フォルダのタイトル変更］をクリックする**

タイトル部分が入力できる状態になります。

❸ **新しいタイトルを入力する**

（☞「タイトルの入力」25ページ）

❹ **パソコンの Enter を押す**

お知らせ

音声ファイルやサブフォルダーを右クリックし、プルダウンメニューで［ファイルのタイトル変更］や［フォルダのタイトル変更］を選ぶこともできます。

音声ファイルのロック

大切な音声ファイルを消してしまったり、編集したりできないようにすることができます。

❶ **ロックする音声ファイルを選ぶ**

❷ **「編集」メニューで［ファイルロック］をクリックする**

- 音声ファイル一覧表示部でロックした音声ファイルに 🔒 がつきます。
- 「編集」メニューで［ファイルロック解除］をクリックするとロックを解除することができます。

お知らせ

音声ファイルを右クリックし、プルダウンメニューで［ファイルロック］や［ファイルロック解除］を選ぶこともできます。

音声ファイルのソート

音声ファイル一覧表示部の項目欄の各ボタンをクリックする

• 音声ファイルが、下表に従ってソートされます。（並べ替え）

項　目	メニュー	備　考
圧縮形式	圧縮形式順（C）	ADPCM2、G.726の順
タイトル	タイトル順（T）	数字、アルファベット、50音順、漢字コード順
録音時間	録音時間順（M）	
録音日時	録音日時順（D）	
ロック	ファイルロック順（L）	ロックがかかっている、かかっていない順
ファイルサイズ	ファイルサイズ順（S）	
モード	モード順（E）	HQ、SP、LP順
フォルダー タイトル	フォルダ順（F）	カレンダー機能時：数字、アルファベット、 50音順、漢字コード順

• もう一度同じボタンをクリックすると現在の順番と逆の順番にソートされます。
• 「編集」メニューで［ソート］を使っても同じ操作ができます。

お知らせ

次の場合はソートできません。
- ICレコーダー
- SDメモリーカード内の（ICレコーダー）アイコンのフォルダー
- CD-R
- ロックされたメディア

タイトルの入力

サブフォルダー及び音声ファイルのタイトルは、漢字表示とカナ表示を切り替えて入力できます。

漢字表示：**「表示」メニューで[漢字表示]をクリック**
カナ表示：**「表示」メニューで[カナ表示]をクリック**

初期設定は、カナ表示モードになっています。

- 最大入力文字—音声ファイル　：全角で100文字（半角で200文字）
  ただし全角と半角の文字数の合計は、半角に換算して250文字までです。
  （全角1文字を半角2文字と数えます）
  サブフォルダー：全角で16文字（半角で32文字）
- 扱える文字——漢字表示（全角、半角カナ、英数字）：JIS第1水準、JIS第2水準（Shift JIS）、JIS X 0201
  カナ表示（半角カナ、英数字）：JIS X 0201

お知らせ

- 音声ファイルタイトルまたはフォルダータイトルは、Voice Editor 3表示専用です。
- Windowsのエクスプローラーでのフォルダー名とは異なりますのでご注意ください。
- タイトルを表示することができるICレコーダーでも、表示対応していない文字は、表示窓で正しく表示できない場合があります。
- H"で録音した音声ファイルは、カナ表示モードでタイトル入力できない場合があります。
- メモリー内蔵タイプのICレコーダー上では音声ファイルのタイトルは直接変更することができません。

インデックス機能

音声ファイルに、インデックスマークの付加（最大16カ所）、削除ができます。
インデックスマークを付加すると、素早く聞きたい所から聞くことができます。

お知らせ

- ICレコーダーでインデックス機能を使うことはできません。
  パソコン上でインデックスを付けたファイルをICレコーダーに転送するとインデックスマークは削除されます。
- SDメモリーカードにはインデックスマークの情報は保存されます。

インデックスの付加

1 音声ファイルを再生する

2 付加する点で [▼+] をクリックする

インデックスマークが付きます。

インデックスの削除

1 インデックスマークをクリックする

2 [▼×] をクリックする

- インデックスマークが削除されます。
- 複数のインデックスマークがあるときは、続けて [▼×] をクリックするとスライダーつまみより左側が連続して削除できます。

インデックスを付けたところからの再生

1 音声ファイルを再生する

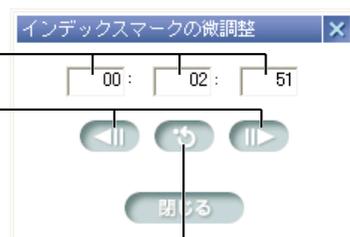
2 [→▼] をクリックする

スライダーつまみがインデックスマークまで飛びます。

お知らせ

- 音声ファイルを分割するとインデックスマークは削除されます。
- インデックスマークの間隔は、最短1秒です。
- インデックスマークの右クリックで表示される画面で位置を微調整できます。

カウンター数値を直接入力できます。

1クリックで1秒ずつ動きます。長く押すと早く動きます。（連続クリックをすばやくおこなうと正しく動かないことがあります）

ダイアログを開いた初期の時点に戻ります。

音声を文字に変換する

ICレコーダーで録音した音声ファイルを、別売りの音声認識ソフト「ドラゴンスピーチ・セレクト バージョン6.0以上」を使って文字に変換することができます。

お知らせ

- HQモードの音声ファイルをご使用ください。SP、LPモード／G.726形式の音声ファイルは変換できません。
- 初めて変換するときは変換前に音声認識ソフト側で、「トレーニング」をしておく必要があります。
- インストール方法や操作の詳細は、音声認識ソフトの取扱説明書またはヘルプをご覧ください。
  URL http://www.scansoft.co.jp/naturallyspeaking/

トレーニング

❶ Voice Editor 3を終了して、ドラゴンスピーチを起動する

トレーニング開始時にVoice Editor 3が先に起動していると、トレーニングが正常におこなえません。

❷ メニュー「DragonSpeech」で［ユーザーの管理（O)］を選ぶ

「ユーザーの管理」画面が表示されます。

❸ ［新規（N)］をクリックする

〈新規ユーザーウィザード〉画面が表示されます。

❹ -1 ユーザー名を入力する
-2 使用する機器（D）で「Panasonic ICレコーダー RR-USシリーズ／RR-XRシリーズ」を選ぶ

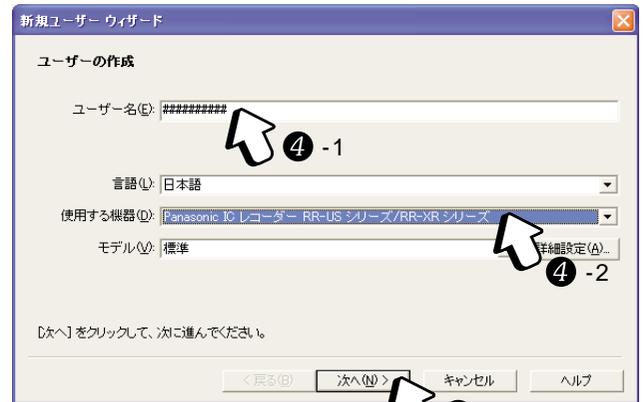
❺ ［次へ（N)］をクリックする

手順を示すガイドの画面が表示されます。

❻ ［次へ（N)］をクリックする

トレーニングテキストのリストが表示されます。

❼ 3つのトレーニングテキストのうち一つを読み上げ、ICレコーダーで録音する

- 録音方法はICレコーダー本体の取扱説明書をご覧ください。
- 録音モードは、HQに設定してください。
- トレーニングのためには、15分以上録音する必要があります。
  必要な録音時間は音声認識ソフトのバージョンで異なる場合があります。詳細は音声認識ソフトの取扱説明書をご覧ください。
- 録音開始前に、ICレコーダーに録音可能な空き容量があるか、ご確認ください。

次ページへ続く

❽ [次へ（N)］をクリックする

〈新規ユーザーウィザード〉画面が表示されます。

❾ [Panasonic Voice Editor]をクリックする

Voice Editor 3が起動し、次の手順を示すガイドの画面も表示されます。

❿ トレーニングテキストを録音したICレコーダーやSDメモリーカードを、パソコンに接続する

(☞ 6ページ)

⓫ Voice Editor 3でトレーニングテキストの音声ファイルを指定し、 をクリックする

音声ファイルが、ドラゴンスピーチに転送されます。
［OK］をクリックするとVoice Editor 3が閉じ、〈新規ユーザーウィザード〉画面に戻ります。

⓬ [次へ（N)］をクリックする

録音の確認を行います。

⓭ [次へ（N)］をクリックし、[適合の開始（S)］をクリックする

- トレーニングが開始されます。
- トレーニングには１時間程度かかる場合があります。

⓮ 画面に従って新規ユーザーウィザードを終了する

文字に変換する

❶ 文字変換する音声ファイルを選ぶ

HQモードの音声ファイルを選んでください。SP、LPモード／G.726形式の音声ファイルは変換できません。

❷ をクリックする

- 音声ファイルが、WAVE形式に自動的に変換され、音声認識ソフトに転送されます。
- 「ドラゴンスピーチ」が起動します。

❸ ICレコーダー用に作成したユーザーを選択する

以下の操作方法については、音声認識ソフトの取扱説明書またはヘルプをごらんください。

Eメールに音声ファイルを添付する

Eメールに音声ファイルを添付するときは、下記の手順をとるとWAVE形式よりも小さいメモリーサイズで送付できます。

音声ファイルの添付・送付

❶ 送付する音声ファイルを選ぶ

複数個、選ぶこともできます。

❷ 「ファイル」メニューで［メール転送形式に変換］を選ぶ

〈メール転送形式に保存〉画面が表示されます。

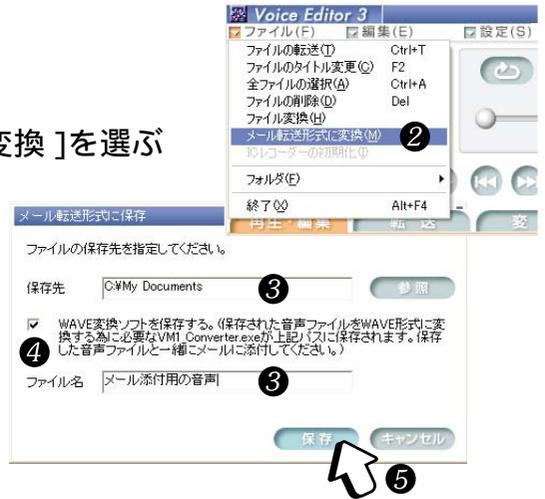
❸ 保存先とファイル名を入力する

ファイル名に「\/:;*?"<>｜」が含まれる場合は自動的に「_」に置き換わります。

❹ 「WAVE変換ソフトを保存する。」に「✔」チェックを入れる

❺ 保存 をクリックする

指定した保存先にWAVE変換ソフト「VM1_Converter.exe」と、❸で付けた名称のVM1のファイル「＊.pvc」が保存され、エクスプローラー画面が表示されます。

❻ お使いのEメールソフトを使って、「VM1_Converter.exe」とVM1のファイル「＊.pvc」を添付して送付する

お知らせ

2回目以降は「VM1_Converter.exe」を添付して送付する必要はありません。「＊.pvc」のみを添付・送付してください。

受け取った音声ファイルの再生

❶ 受け取った「VM1_Converter.exe」をダブルクリックする

〈Panasonic VM1Converter〉画面が表示されます。

❷ 解凍先を指定し、［解凍］をクリックする

指定先に解凍、保存されます。

❸ 同時に表示されるヘルプファイルの説明に従って、VM1形式ファイルをWAVE形式に変換する

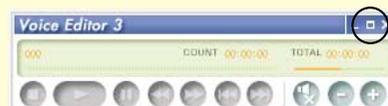
❹ お使いの音声データ再生用ソフトウェアか、Voice Editor 3で再生する

スキン（小画面）を使う

限られた機能だけを使うときはスキン**（小画面）**を使うと便利です。

「表示」メニューの[スキン]から、好みのスキンを選ぶ

■ **通常画面にもどるには**

スキンの右上の ▣ をクリックする

表示設定

画面の幅を変更する

❶ ポインターを変更したい境界線上に移動する

「⟷」マークに切り替わります。

❷ 任意の幅にドラッグする

カレンダー表示部の横幅は変更できません。

表示項目設定

音声ファイル一覧に表示される項目を変更できます。

❶「設定」メニューで［表示項目設定］を選ぶ

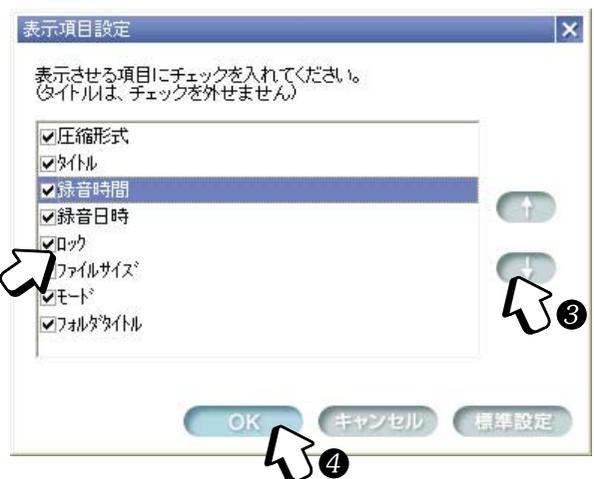
〈表示項目設定〉画面が表示されます。

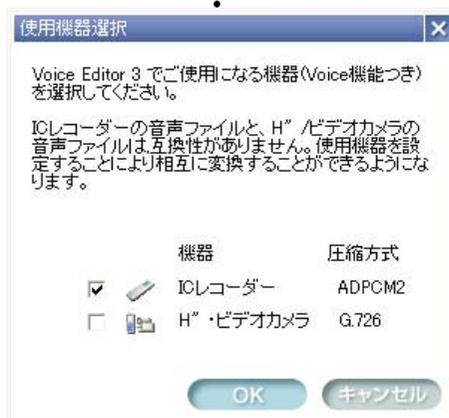
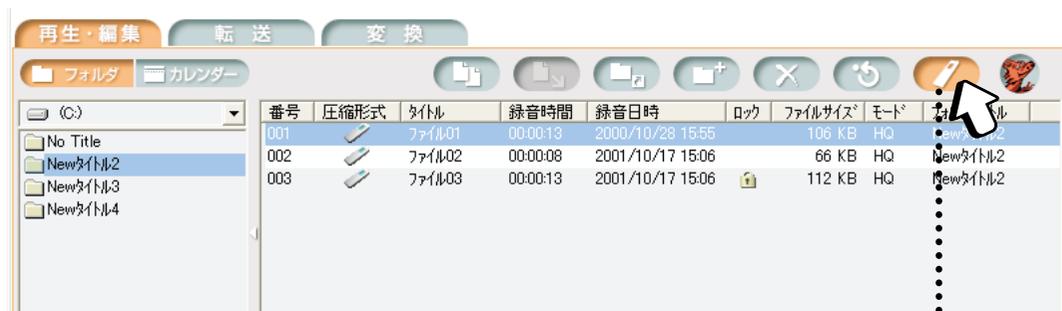
❷ 表示する項目に「✔」チェックを入れる

「タイトル」の「✔」チェックははずせません。

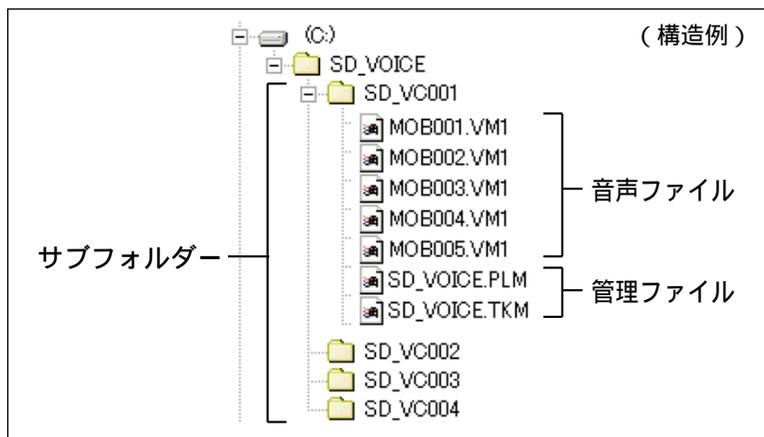
❸ 表示する項目を反転表示させ、↑、↓ で順番を変える

❹ OK をクリックする

- 表示項目が変更されます。
- ［標準設定］をクリックすると初期状態に戻ります。

使用機器の選択

ICレコーダーの音声ファイルと、H"/ビデオカメラの音声ファイルは互換性がありません。使用機器を設定することにより相互に変換できるようになります。
音声ファイルの転送時に使用機器の選択設定が必要な場合は、〈使用機器選択〉画面が表示されます。

SD_VOICEフォルダーと音声ファイル

フォルダー構造

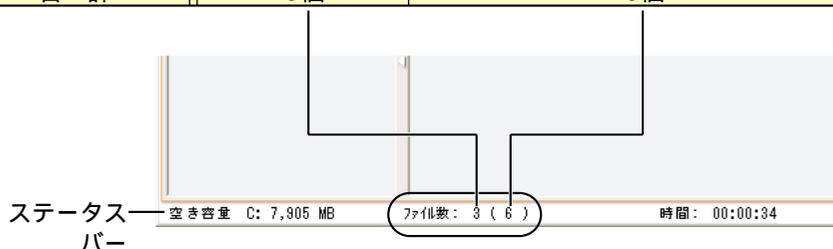
パソコンのハードディスク上では、初期設定で以下のようなフォルダー構造になっています。

お知らせ

- サブフォルダー、音声ファイル、管理ファイルをエクスプローラー上で操作しないでください。音声ファイルがこわれたり、Voice Editorが正常に動作しなくなります。
- これらのフォルダーおよびファイルはすべて隠しファイルの属性設定になっています。
- メモリー内蔵のICレコーダーについては、4個の固定フォルダーになっています。

ファイル数

G.726形式の音声ファイル（H"、ビデオカメラで録音される音声データ）の場合、8分24秒ごとに分割されて保存されるため、8分24秒を越える音声ファイルがある場合は1フォルダーあたりの保存できるファイル数が999個より少なくなります。

（例）

G.726録音時間	音声ファイル数	構成ファイル数
5分	1個	1個（5分×1個）
10分	1個	2個（8分24秒×1個＋1分36秒×1個）
20分	1個	3個（8分24秒×2個＋3分12秒×1個）
合　計	3個	6個

お知らせ

ADPCM2（ICレコーダーで録音される音声データ）は、音声ファイル数と構成ファイル数は同一です。

アンインストールする

❶「スタート」メニューで、「コントロールパネル」を選ぶ

❷「プログラムの追加と削除」をダブルクリックする

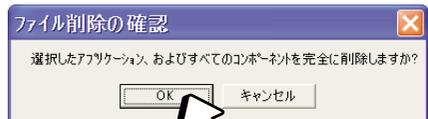
〈プログラムの追加と削除〉画面が表示されます。

❸［プログラムの変更と削除］をクリックする

❹［Voice Editor 3］をクリックし、［変更と削除］をクリックする

〈ファイル削除の確認〉画面が表示されます。

❺［OK］をクリックする

Voice Editor 3が削除されます。

❻［完了］をクリックする

お願い

このソフトウェアを一度インストールしたあと、別のドライブまたはフォルダーに移動させる場合は、アンインストールしてから再度インストールを行ってください。

Q&A（よくあるご質問）

質問（Q）	回答（A）
本アプリケーションを、アンインストールしたり再インストールした場合、保存したデータは残りますか。	残ります。ただし、安全の為バックアップしておく事をお勧めします。
パソコンに保存したファイルがみつかりませんが、どこに保存されているのですか。	隠しファイルの設定になっています。ドライブのルートにSD_VOICEという隠しフォルダーが作られ、その中に保存されています。隠しファイル、隠しフォルダーの属性設定についてはWindowsの取扱説明書をご覧ください。 **お知らせ** ファイル単体での保存はできません。
音声ファイルを、CD-Rに保存できますか。	可能です。SD_VOICEフォルダーごと、CD-R書き込みソフトなどを用いて書き込みを行なってください。 **お知らせ** SD_VOICEフォルダー内の音声ファイルを直接操作すると、再生できなくなることがあります。
MP3は、再生できますか。	対応していません。
パソコンのハードディスクに十分な空き容量があるのに、音声ファイルを転送できません。	音声ファイルをパソコンに転送する時、転送する音声ファイル容量の最大約3倍の一時領域を必要とする場合があります。 ファイル転送完了後、一時領域は開放されます。ただし、圧縮形式を変換して転送すると、さらに空き容量が必要になります。この場合は、＜音声圧縮形式の選択＞画面で、「変換せずに転送」を選んで転送してください。（☞ 9、10ページ ）
音声ファイルを、人に渡したいのですが。	音声ファイルを渡したい相手が、Voice Editor 3をお持ちの場合、SD_VOICEフォルダーごとコピーしてお渡しください。 お持ちでない場合は、Voice Editor 3を使って、WAVE形式に変換してお渡しください。または、「メール形式に変換」機能を使って、VM1のファイル「＊.pvc」とWAVE変換ソフト「VM1_Converter.exe」をコピーしてお渡しください。（☞ 16、29ページ） **お知らせ** WAVE形式であれば、通常どのパソコンでも再生可能です。
音声ファイルを電子メールで添付して送れますか。	できます。Voice Editor 3の「メール転送形式に変換」機能を使ってVM1のファイル「＊.pvc」と、WAVE変換ソフト「VM1_Converter.exe」を添付し送信してください。（☞ 29ページ） **お知らせ** WAVE形式に変換すると、ファイルサイズが大きくなります。
Voice Editor 3で管理しているフォルダーはいくつまで作れますか。	パソコンのハードディスク等、書き換え可能なドライブには、1ドライブ当たり、999個まで作成できます。（☞ 5ページ）
ひとつのフォルダーに、音声ファイルは最大いくつ保存できますか。	1つのフォルダーには、最大999個のファイルを保存する事ができます。（☞ 5ページ）
WAVE形式のファイルに、どうやって変換するのですか。	Voice Editor 3の変換機能を使ってください。 メイン画面で変換したいファイルを選択し、「変換」タブ、 WAVE ボタンを押して、表示されるダイアログで、形式を選んでください。（☞ 16ページ）

次ページへ続く

Q&A（よくあるご質問）

質問（Q）	回答（A）
Voice Editor 3で、メディア（SDメモリーカードやリムーバブルメディアなど）上のファイルを表示させている時、メディアを交換しても問題ないでしょうか。	Voice Editor 3で音声ファイルを表示させている時にメディアを交換した場合は必ず、「表示」メニューで［最新の情報に更新］を選ぶか、またはF5キーを押して、情報を更新させてください。 **お知らせ** 再生・転送・変換などでメディア上の音声ファイルをアクセスしている最中にメディアを抜き取ると、音声ファイルが壊れることがありますので、抜き取らないでください。
ICレコーダーとパソコンをUSBケーブルで接続すると、OSのハードウエアウイザードが現れました。 どうすれば、良いですか。	ドライバーがインストールされていないためです。ハードウエアウイザードをキャンセルし、一旦、USBプラグを抜き取ってから、付属しているVoice Editor 3のCD-ROMをインストールしてください。Voice Editor 3のインストールと共に、ドライバーもインストールされます。 インストールが完了しましたら、OSを再起動して、USBプラグを接続してください。 **お知らせ** 付属のCD-ROMには、ルートにdriverフォルダーがあります。これを用いて、手動でドライバーをインストールすることも可能です。
SDメモリーカードに転送した音声ファイルが再生できません。	ICレコーダーの音声ファイルと、H"／ビデオカメラの音声ファイルは互換性がありません。使用機器に合わせて圧縮形式を設定してください。（☞ 32ページ）。
Voice Editor 3では、SDメモリーカードのICレコーダーファイルが再生できるのですが、このSDメモリーカードをSDメモリーカード付きICレコーダーに差し込むと、再生できない音声ファイルがありますが。	SDメモリーカード付きICレコーダーは、33ページに記載しているファイル構造のMOB001.VM1～MOB099.VM1のみが再生できます。 MOBのファイル番号が、100番以上の音声ファイルは、SDメモリーカード付きICレコーダーでは再生できません。この場合、再生できない音声ファイルを別のサブフォルダー（SD_VC001～SD_ VC009）に転送し直してください。
Voice Editor 3では、他のメーカーのボイスレコーダーで録音した音声ファイルを再生できますか。	Voice Editor 3で、再生できない音声ファイルは、 アイコンが表示されます。 アイコンが表示された音声ファイルはサポートしていません。
Voice Editor 3に対応している既存のICレコーダーの機種名を教えてください。	RR-XRシリーズ：RR-XR320/RR-XR330 RR-USシリーズ：RR-US520/RR-US620 および Voice Editor 3が付属されている機種 （2002年12月現在）
ICレコーダーの音声ファイルを直接再生するとき、操作できないボタンがありますが。	ICレコーダーの直接再生で一部はたらかない機能があります。 機能しないボタンは非アクティブ（グレー表示）になっています。

故障かな!?と思ったら

症　状	原因・対策
インストールできない	• ハードディスクの空き容量が少ない可能性があります。 →容量を確認してください。
音声ファイルが 再生できない	• サウンドボードがついていない（☞ 4ページ）。 • パソコンにスピーカーが内蔵または接続されていない。
再生音量が小さい	• パソコン側で音量を上げてみてください。（詳しくはお使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください）
再生時に音飛びする	• 再生中はWindowsや他のアプリケーションを操作しないでください。
音声ファイルの 保存・追加・削除中に 画面が動かなくなる	• 録音時間の長い音声ファイルの場合、コピーまたは削除に時間がかかります。 →コピーまたは削除が終了するまでお待ちください。 通常の操作ができるようになります。
音声ファイルが 編集できない	• ロックされた音声ファイルは編集ができません。 →ロックを解除してください。（☞ 23ページ）
メールに添付された 「VM1_Converter.exe」 が受け取れない	• 相手先への送付前に「＊.exe」の拡張子「.exe」を一旦消して送付してください。相手先で「.exe」を手入力で付加した後、ダブルクリックで実行してください。拡張子を非表示にしているときは、表示の設定を変更してください。設定方法はWindowsの取扱説明書をご覧ください。
ICレコーダーのLPモードの音声ファイルが早送り再生になる	• 一部のサウンドボードで、この現象が生じることがあります。 • WAVE形式(8kHz,16bit)もしくは、G.726形式に変換して、再生してください。（☞ 16、18ページ）
音声ファイルの変換時にサブフォルダーやファイルの一覧が正しく表示されない	• Internet Explorer5.0以前のバージョンをお使いの場合、表示が乱れることがあります。Internet Explorerをアップデートしてください。
Windowsで「タスクバーを自動的に隠す」設定にしている時、タスクバーが表示されない	• 「タスクバーを自動的に隠す」設定をしている時にVoice Editor 3を最大化表示で使用すると、タスクバーが表示できなくなる場合があります。 右上端の表示切替 ボタンを押して最大化を解除してご使用ください。

本ソフトウェアに関するお問い合わせ先

使いかた・お買い物などのご相談
ナショナル／パナソニック　お客様ご相談センター
365日／受付9時～20時 電話　フリーダイヤル　0120-878-365（パナは365日） ■携帯電話・PHSでのご利用は…06-6907-1187 FAX　フリーダイヤル　0120-878-236
Help desk for foreign residents in Japan 〈外国人／海外仕様商品（ツーリスト商品他）等ご相談窓口〉 **Tokyo** (03) 3256 - 5444　**Osaka** (06) 6645 - 8787 Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

ホームページもご覧ください。http://panasonic.jp/support/audio/

別売品

（2002年12月現在）

■ SDメモリーカード

- RP-SD032BL1A （32 Mバイト）
- RP-SD064BL1A （64 Mバイト）
- RP-SD128BL1A （128 Mバイト）
- RP-SDH256L1A （256 Mバイト）

■ USBリーダーライター

- BN-SDCEP3
- BN-SDCAP3B

■ PCカードアダプター

- BN-SDAAP3

■ コンパクトフラッシュアダプター

- BN-CSDABP3

■ 音声認識ソフト

- ScanSoft, Inc　ドラゴンスピーチ・セレクト バージョン6.0以上

- 本製品、およびパソコンの不具合により、録音ができない場合や音声データが破損した場合などのデータの補償についてはご容赦ください。
- 本製品、および本書の内容に関しましては、事前に予告なしに変更することがあります。
- 本書では、OSがWindows XPのときに表示される操作画面例を使用しています。また、本書のイラストや画面は一部実際と異なる場合があります。

松下電器産業株式会社
ネットワーク事業グループ

〒571-8505　大阪府門真市松生町1番4号

MSC0037AD_J_ZA
M1202SF2033